

第2回 地区別懇談会【中神地区】

日時：令和3年6月8日（火）18:30～

場所：中原小学校体育館

次 第

1. 開会挨拶

2. 地区の復興まちづくりに向けての参考資料の説明

（1）地区別懇談会の振り返りと情報提供【資料1】

（2）懇談会意見を踏まえた復興まちづくりの方向案について【資料2】【資料3】

①復興まちづくりの方向案（課題と取組み方向に関する意見集約案）

②復興まちづくりのイメージ案（上記意見も踏まえた試案と参考事例）

③今後の進め方案

3. 地区ごとの話し合い

（1）復興まちづくりの方向案（課題、取組方針、具体の取組み案）について

（2）復興まちづくりのイメージ案（上記意見も踏まえた試案）について

○これまでの意見を踏まえた内容になっているか？

○修正すべきものや、追加すべきものはないか？

○地区を元気にする取組みの意見やアイデアは？

（3）次回日程の調整、今後の進め方、連絡体制の確認について

4. 全体共有

5. その他

6. 閉会挨拶

【資料】

- ・資料1：地区別懇談会だより第1号
- ・資料2：復興まちづくりの方向案とイメージ案
- ・資料3：参考事例

地区懇談会だより

Vol.1

中神地区

～みんなで取り組む、人吉市の復興まちづくり～

『地区別懇談会（第1回）』を開催しました 5月13日（水）18時 中原コミュニティセンター

甚大な被害や治水対策による影響が大きいなど、地区でまとまって問題解決に取り組む必要性の高い地区を「重点地区」として位置づけ、それぞれの地区ごとに「地区別懇談会」で話し合いを進めていくこととなりました。

中神地区の**対象地区は、中神町城本、段、馬場、下原田町瓜生田**です。

◆第1回地区別懇談会

1 復興計画、復興まちづくり計画についての説明

- ・復興計画等の概要説明
- ・重点地区の考え方と地区別懇談会の進め方
- ・これまでの校区别座談会の概要

2 地区ごとの話し合いと全体共有

- ・顔合わせ、自己紹介（想いや困り事など）
- ・次回日程や宿題、連絡体制や参加者の声かけ



瓜生田



城本



段



馬場

懇談会の進め方について ～復興まちづくり計画の策定に向けて～

これまでの「校区别座談会」（2～3月に開催）での意見も踏まえつつ、令和3年度は「地区別懇談会」として、重点地区ごとに具体的な復興まちづくりの取組みの検討を進め、「復興まちづくり計画」に反映していく方針です。

◆地区別懇談会のメンバー

- ・対象地区内の町内会長や住民等で構成されたメンバーです。
- ・可能な範囲で、継続的な話し合いに参加いただきます。
- ・参加希望者は随時受け付けておりますので、本紙面末尾の復興支援課までお問合せください。
- ・年齢・性別を問わず、事業者も含めて、幅広い参加をお待ちしています。

◆地区別懇談会の進め方

- ・4～10月までの間に、概ね月1回（合計8回程度）の会議開催を想定しています。
- ・次回の開催予定：**6月8日（火）18時30分より** **会場：中原小学校体育館**
- ・今後の開催日時や会議のテーマについては、参加者の要望を踏まえつつ、柔軟に対応していく方針です。

◇復興まちづくり計画とは

- ・復興計画を実現するために取り組むべき内容を検討・整理したものです。
- ・特に被害の大きい特定地域（重点地区）などを対象に、各地域の具体的な計画づくりを行います。
- ・住民主役の計画づくり（策定主体は主に住民）に対して、行政が支援し、計画策定をめざします。
- ・計画期間は、令和4～9年度の概ね6年間。（令和3年度からの一部実施も想定）

中神地区の『復興まちづくりへの想い』について ～第1回懇談会の意見概要～

※第1回地区別懇談会における参加者の意見であり、決まった内容や事実確認をした内容ではありません。

項 目		復興まちづくりへの思いや困り事等について
避難対策	避難場所 道路	・生涯学習センターや中原公民館は結構遠い。＜瓜生田＞ ・避難所の中原小の開設には1時間要した。中原小体育館にはクーラーがなく、夏場は大変だった（現在は設置済）。＜段＞ ・あきだん坂が急勾配で、道幅が狭く、避難することができなかった。地区内道路には行き止まり区間がある。＜城本＞／中原小学校へのアクセス道路が急勾配。＜段＞／避難ルートの道路側溝が詰まり、氾濫し危険な状態だった。河川の治水対策を進めることが必要。＜馬場＞
	避難誘導 要支援者対策	・防災無線の避難情報は伝わらなかった（聞こえない、内容が分からない）。＜馬場＞ ・防災無線の仕組みを見直してほしい。＜城本＞ ・地区が浸水マップに載っていなかった。＜瓜生田＞ ・誰が高齢者を助けるのかを考える必要あり。＜瓜生田＞ ・誰が避難困難者をどう避難させるか、自主避難訓練日 5/30 は考え、実践する日とした。＜馬場＞
生業再建 住まい再建	住まい再建 生業再建 復興まちづくり	・市外（八代）の仮設住宅に9か月入居している。2年以内に住居を確保できるかどうか。＜馬場＞ ・現住地で再建を考えているが、治水対策が未定のままでは決めきれない。＜馬場・城本＞ ・住まいは城本にないが、住まいの再建は地元の意見を尊重したい。 ・遊水地の内容がはっきりしないと、身の振り方が決まらない。温泉が再建できるのかどうか。堆積土砂を撤去し、農地復旧はいつになるのか。＜城本・馬場・段＞ ・農業後継者が少なくなっている。営農意向のある方と遊水地希望の方との交換ができないか。＜馬場＞ ・圃場整備された所、利用されている優良農地の代替を他で求められるかどうか。優良農地の減少を危惧している。＜地権者＞ ・10年後、農業をする人、後継者はいない。高齢化。自分でできないなら、貸すしかない。草刈り、草刈りの参加者が少なくなっている。＜地権者＞
	地域コミュニティ 地区への思い	・移転した世帯も移転先のコミュニティに不安がある。＜瓜生田＞ ・先祖伝来より守り続けてきた農地や住まいであり、被災した土地でもないがしろにできない。＜馬場＞ ・町内会長宅が被災し、町内資料が把握できなくなった。コロナ禍で班長会が開催できない。世代間ギャップも感じる。＜瓜生田＞
治水その他	治水	・遊水地に係る詳細な情報提供がほしい。＜段・地権者＞ ・遊水地には反対（農業を続けたい、先祖代々の土地だから、現住地に愛着があるなど）。遊水地ありきではなく、他の方法も考えてほしい。＜城本＞ ・市房ダムの計画的な放流をしてほしい。瀬戸石ダムは不要ではないか。＜馬場＞
	治山 土砂対策	・嵩上げなどの対策が必要。＜瓜生田＞ ・球磨川の治水対策も大事だが、山田川、馬氷川など球磨川支流のバックウォーターを検討することが先決。＜段＞ ・治水事業（遊水地等）に協力したいが、水害が起きないような有効な治水対策として活用してほしい。＜馬場＞
	その他	・コロナ禍のため、集まりができず、高齢者の健康面が不安。＜瓜生田＞ ・地区で温度差、情報量に温度差がある。懇談会に参加できない人にも情報発信してほしい。情報発信は正確かつスピーディーに。＜段＞ ・中央病院の移転後、龍生園付近の停電復旧が遅れるようになった。＜瓜生田＞

◇お問い合わせ 人吉市役所 復興局 復興支援課
〒868-8601 熊本県人吉市下城本町 1578-1
Tel:0966-22-2111(内線:8893) Fax:0966-24-7869
E-mail:fukkousien@hitoyoshi.kumamoto.jp

これらに関する情報は、市ホームページにも掲載しています。ホームページをご覧になれない人はお問い合わせください。

中神地区 復興まちづくりの方向（案） ～これまでの地区別懇談会意見を踏まえた方向（たたき台案）の整理～

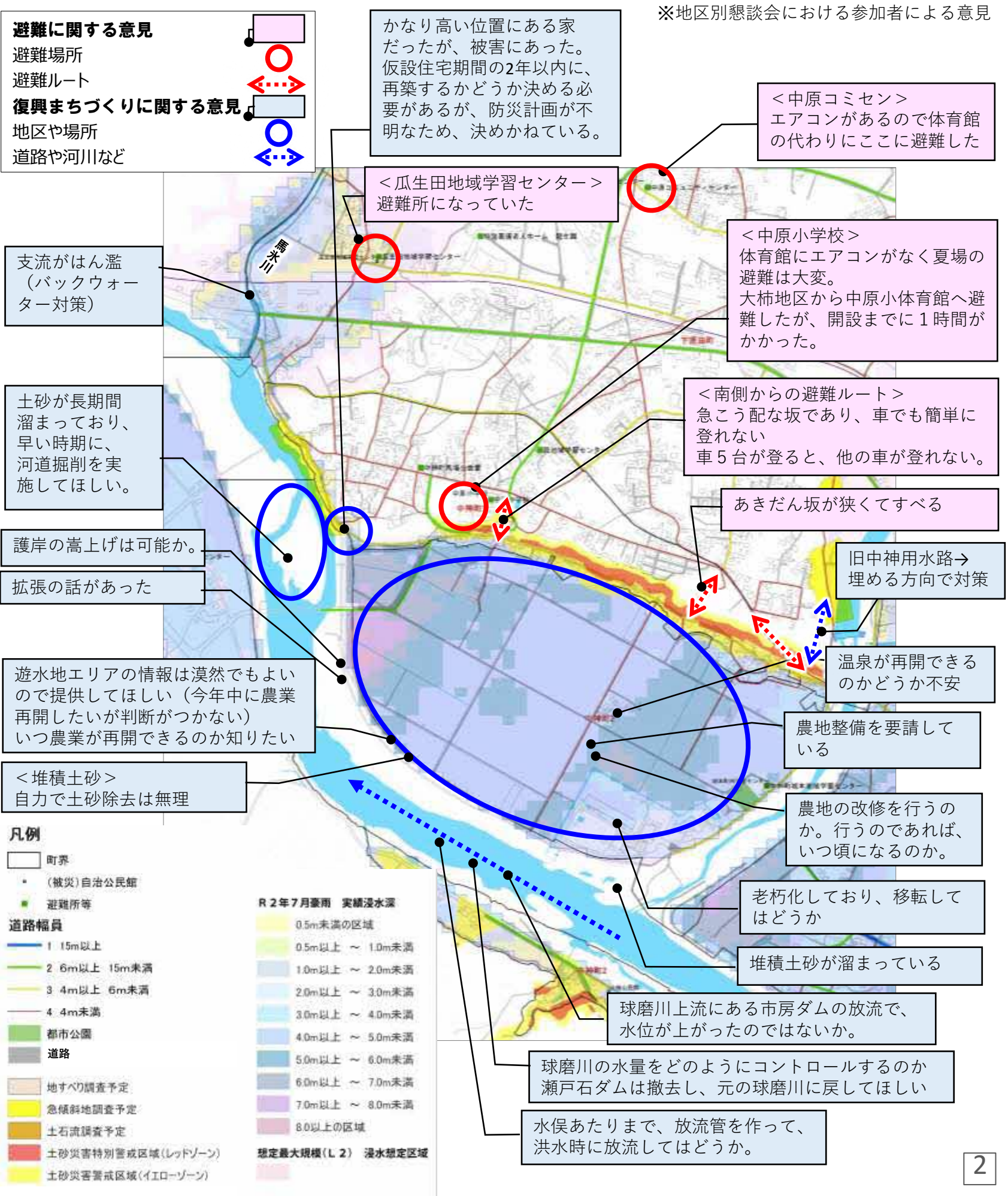
赤字：事務局側での記載事項

意見集約のキーワード （復興計画の3つの柱）	地区の主な課題 （地区の復興まちづくりに向けた主な課題）	取組み方針 （課題解決のための取組み方針の柱）	具体的取組み（案） ※実現化に向け、今後検討が必要
①被災者のくらし再建と コミュニティの再生 【住まい再建】 【コミュニティ再生】	☐ 住まいの再建における安全性の向上 ・現住地で再建を考えているが、治水対策、遊水地がはっきりしないと決めきれない。 ・嵩上げなどの対策が必要。 ・温泉が再建できるか。 ・移転した世帯も移転先のコミュニティに不安がある。 ・先祖伝来より守り続けてきた農地や住まいであり、被災した土地でもないがしろにできない。	☐ 住まいの再建における安全性の向上 ・現地での住まいの修復や再建など、早急な生活再建を図るとともに、治水対策の状況も踏まえ、嵩上げなど安全性の向上を図る。 ☐ コミュニティの再生	☐ 安全性を高める建て方の誘導（例） ・建物1階のピロティ化、浸水深以上の居室の確保。 ・建物構造の耐水化。 ・宅地の盛土・嵩上げ。 ・防災集団移転、がけ地近接等危険住宅移転事業 等。 ●参考：防災性に留意した嵩上げ等のまちづくりの事例
②力強い地域経済の再生 【生業再建】	☐ 農地復旧・農業の継続 ・堆積土砂の撤去、農地復旧がいつになるか未定。 ・圃場整備された優良農地の代替地の確保。 ・営農者の後継者不足、高齢化。 ・農業後継者が少なくなっている中で、営農意向のある方と遊水地希望の方との交換ができないか。	☐ 農地復旧・農業の継続 ・治水対策の状況を踏まえつつ、農地の復旧、優良農地の維持、営農形態の見直し等による農業の継続を図る。	☐ 農地復旧・農業の継続 ・農地等災害復旧事業。 ・優良農地の代替地の確保。 ・営農形態の見直し（集落営農、営農法人等）。
③災害に負けないまちづくり 【避難対策】	☐ 安全な避難ルートの確保 ・あきだん坂が急勾配で、道幅が狭く、避難できない。地区内道路には行き止まり区間がある。 ・中原小学校へのアクセス道路が急勾配。 ・避難ルートの道路側溝が詰まり、氾濫し危険な状態。 ☐ 避難所の見直し・改善 ・生涯学習センターや中原公民館が遠い。 ・避難所の中原小の開設には1時間要した。体育館にクーラーがなく、夏場は大変。（現在は設置済）。 ☐ 安全な避難方法の確立 ・防災無線の避難情報は伝達。 ・高齢者や避難困難者を誰がどう避難させるか。	☐ 安全な避難路の整備 ・高台や避難所への安全な避難路の整備を進める。 ☐ 避難所の見直し・機能拡充 ・指定避難所・自主避難所の見直し、コロナに対応した避難所の分散化、避難所の機能強化を図る。 ☐ 自助共助の避難体制の構築 ・避難情報の確実な伝達を行った上で、町内での共助により要支援者の避難行動を支援する仕組みや体制づくりを進める。	☐ 安全な避難路の整備 ・高台への避難路の整備・拡幅、沿道の急傾斜地の対策。（都市防災総合推進事業） ☐ 避難所の見直し・機能拡充 ・指定避難所・自主避難所の見直し。 ・避難所の空調設備等の拡充。 ☐ 地域特性を踏まえた地区防災計画、マイ・タイムラインの作成 ・地区の災害リスクを踏まえた地区防災計画の作成。 ・避難のタイミングを判断する地域独自の「きっかけ」の検討。 ☐ 防災情報の伝達機能強化 ・各世帯への戸別受信機の配布（市より、6月から順次配布）。 ☐ 自助共助の避難体制の構築 ・町内支援ネットワークの「サポーター」の仕組みの構築。 ・実際に起こり得る状況を想定した、地区単位での避難訓練の実施。 ●参考：避難地・避難路整備の例
【治水・土砂災害対策】 【復興まちづくり】	☐ 土砂災害警戒区域 ・崖地付近が土砂災害警戒区域／特別警戒区域に指定。 ☐ 遊水地 ・遊水地に係る詳細な情報提供。 ・水害が起きないような有効な治水対策としての活用。 ☐ 治水対策 ・市房ダムの計画的な放流。瀬戸石ダムの対策など、球磨川本川の治水対策。 ・山田川、馬氷川など球磨川支流のバックウォーターへの対応。	☐ 遊水地に関する情報提供 ・国からの遊水地の整備内容等についての情報提供を踏まえ、住まいの再建や農業の継続のあり方を検討する。 ☐ 本川・支川の水位の低下 ・上流から下流、集水域から氾濫域までの治水対策を総合的に取り組む。	☐ 遊水地に関する情報提供 ・国からの遊水地や流域治水に関する説明や協議の場。 ・遊水地整備に関する住民・地権者の意向把握。 ☐ 流域治水プロジェクトによる本川・支川の水位の低下 ・川辺川ダム整備、市房ダム再開発、河道掘削、遊水地整備等 ●参考：球磨川水系流域治水プロジェクト ●参考：遊水地と移転地の取組

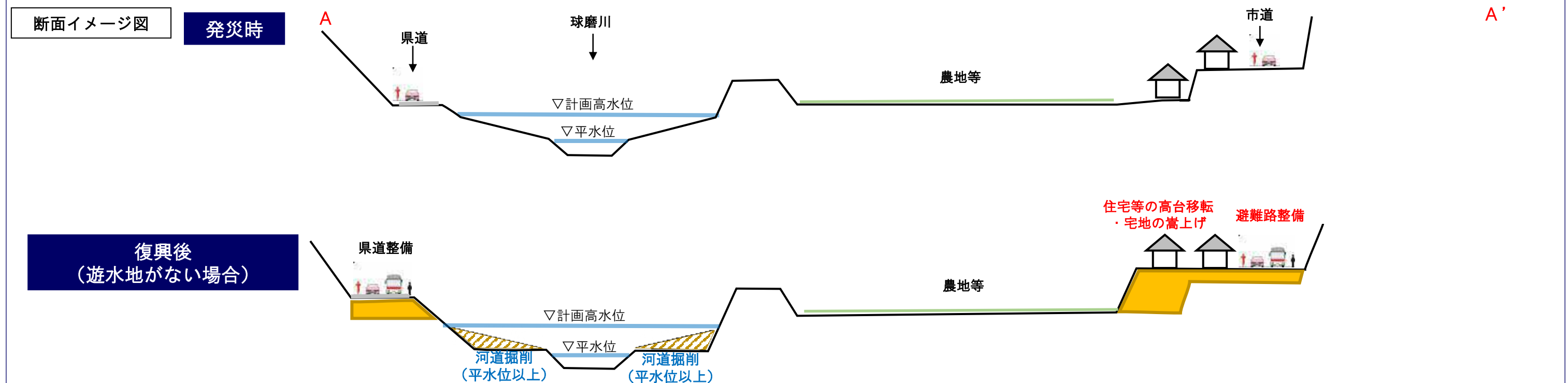
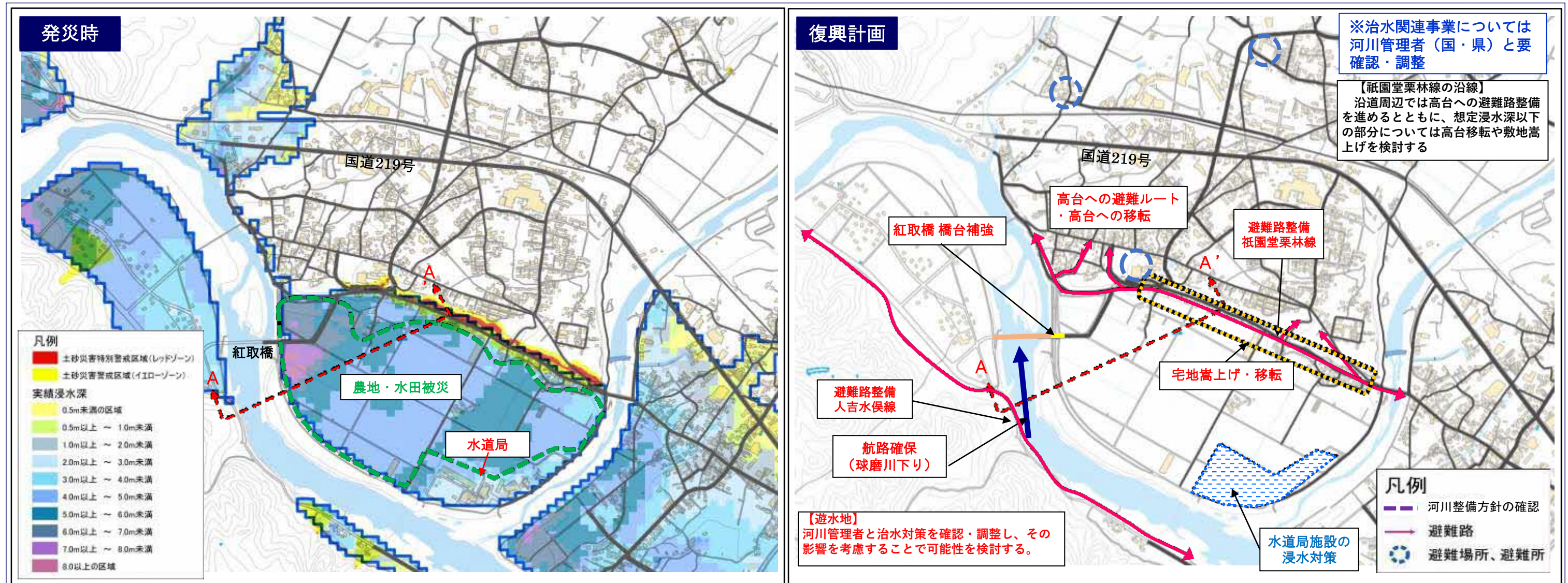
中神地区 現況 ・ 令和2年7月豪雨の被害 ・ 災害危険性

＜地区別懇談会で出された意見等＞

項 目		復興まちづくりへの思いや困り事等について
避難対策	避難場所 道路	・生涯学習センターや中原公民館は結構遠い。＜瓜生田＞ ・避難所の中原小の開設には 1 時間要した。中原小体育館にはクーラーがなく、夏場は大変だった（現在は設置済）。＜段＞ ・あきだん坂が急勾配で、道幅が狭く、避難することができなかった。地区内道路には行き止まり区間がある。＜城本＞／中原小学校へのアクセス道路が急勾配。＜段＞／避難ルートの道路側溝が詰まり、氾濫し危険な状態だった。河川の治水対策を進めることが必要。＜馬場＞
	避難誘導 要支援者対策	・防災無線の避難情報は伝わらなかった（聞こえない、内容が分からない）。＜馬場＞ ・防災無線の仕組みを見直してほしい。＜城本＞ ・地区が浸水マップに載っていなかった。＜瓜生田＞ ・誰が高齢者を助けるのかを考える必要あり。＜瓜生田＞ ・誰が避難困難者をどう避難させるか、自主避難訓練日 5/30 は考え、実践する日としたい。＜馬場＞
生業再建 住まい再建	住まい再建 生業再建 復興まちづくり	・市外（八代）の仮設住宅に9か月入居している。2年以内に住居を確保できるかどうか。＜馬場＞ ・現住地で再建を考えているが、治水対策が未定のままでは決めきれない。＜馬場・城本＞ ・住まいは城本にないが、住まいの再建は地元の意見を尊重したい。 ・遊水地の内容がはっきりしないと、身の振り方が決まらない。温泉が再建できるのかどうか。堆積土砂を撤去し、農地復旧はいつになるのか。＜城本・馬場・段＞ ・農業後継者が少なくなっている。営農意向のある方と遊水地希望の方との交換ができないか。＜馬場＞ ・圃場整備された所、利用されている優良農地の代替を他で求められるかどうか。優良農地の減少を危惧している。＜地権者＞ ・10 年後、農業をする人、後継者はいない。高齢化。自分でできないなら、貸すしかない。草刈い、草刈りの参加者が少なくなっている。＜地権者＞
	地域コミュニティ 地区への思い	・移転した世帯も移転先のコミュニティに不安がある。＜瓜生田＞ ・先祖伝来より守り続けてきた農地や住まいであり、被災した土地でもないがしろにできない。＜馬場＞ ・町内会長宅が被災し、町内資料が把握できなくなった。コロナ禍で班長会が開催できない。世代間ギャップも感じる。＜瓜生田＞
治水その他	治水	・遊水地に係る詳細な情報提供がほしい。＜段・地権者＞ ・遊水地には反対（農業を続けたい、先祖代々の土地だから、現住地に愛着があるなど）。遊水地ありきではなく、他の方法も考えてほしい。＜城本＞ ・市房ダムの計画的な放流をしてほしい。瀬戸石ダムは不要ではないか。＜馬場＞
	治山 土砂対策	・高上げなどの対策が必要。＜瓜生田＞ ・球磨川の治水対策も大事だが、山田川、馬氷川など球磨川支流のバックウォーターを検討することが先決。＜段＞ ・治水事業（遊水地等）に協力したいが、水害が起きないような有効な治水対策として活用してほしい。＜馬場＞
	その他	・コロナ禍のため、集まりができず、高齢者の健康面が不安。＜瓜生田＞ ・地区で温度差、情報量に温度差がある。懇談会に参加できない人にも情報発信してほしい。情報発信は正確かつスピーディーに。＜段＞ ・中央病院の移転後、龍生園付近の停電復旧が遅れるようになった。＜瓜生田＞

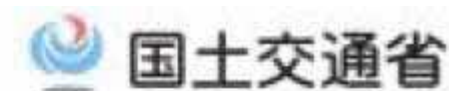


中神地区 復興まちづくりイメージ(案) ～これまでの地区別懇談会意見を踏まえた方向(たたき台案)の整理～



【参考事例】 避難地・避難路整備の例

都市防災総合推進事業



避難地・避難路等の公共施設整備や防災まちづくり拠点施設の整備、避難地・避難路周辺の建築物の不燃化、木造老朽建築物の除却及び住民の防災に対する意識の向上等を推進し、防災上危険な市街地における地区レベルの防災性の向上を図る取組を「都市防災総合推進事業」（防災・安全交付金の基幹事業）により支援

○ 都市防災総合推進事業の概要

事業主体： 市町村、都道府県 等

事業メニュー	主な交付対象施設等	交付率
①災害危険度判定調査	・各種災害に対する危険度判定調査	1/3
②住民等のまちづくり活動支援	・住民等に対する啓発活動 ・まちづくり協議会活動助成	1/3
③地区公共施設等整備	・地区公共施設（道路、公園等（防災ベンチ等を含む）） ・防災まちづくり拠点施設（津波避難タワー、防災備蓄倉庫等）	1/2 1/3※1 2/3※2
④都市防災不燃化促進	・耐火建築物等の建築への助成	1/2 1/3※1
⑤木造老朽建築物除却事業	・密集市街地における木造老朽建築物の除却への助成	1/3
⑥被災地における復興まちづくり総合支援事業	・復興まちづくり計画策定 ・地区公共施設 ・防災まちづくり拠点施設 ・高質空間形成施設 ・復興まちづくり支援施設	1/2 1/3※3

※1： 地区公共施設等整備に関する用地費等については交付率1/3

※2： 南海トラフ特措法に基づく津波避難対策緊急事業計画に位置づけられ、一定の要件を満たす避難場所、避難路の整備については交付率2/3

※3： 高質空間形成施設、復興まちづくり支援施設については交付率1/3

○ 地区要件等

施行地区	<事業メニュー①～④> 以下のいずれかに該当し、都市防災に関する計画（地域防災計画など）を踏まえて、防災上特に対策が必要とされる地区 ・三大都市圏の既成市街地 ・大規模地震発生の可能性の高い地域※4 ・指定市 ・道府県庁所在の市 ・DID地区 <事業メニュー⑤> ・重点密集市街地 <事業メニュー⑥> ・激甚災害による被災地
交付対象	測量試験費、実施設計費、工事費 等

※4： 地震防災対策強化地域、南海トラフ地震防災対策推進地域、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震防災対策推進地域、又は地震予知観測強化地域、特定観測地域



津波避難タワー



備蓄倉庫



整備前



避難場所に向かう避難通路(階段)



避難場所となる公園



沿道建築物の不燃化 整備後

※出典：国土交通省

※従来から検討してきた貯留型ダム並びに再開発後の市房ダムによる洪水調節の効果を含む



【参考事例】 遊水地と移転地の取り組み

牟田辺遊水地（佐賀県多久市） 遊水地整備に伴い住宅地を移転した例



1 排水機場 【排水能力5m³/秒】
 遊水地内の水を強力なポンプで牛津川に排水します。



2 初期湛水池 【面積約1ヘクタール】
 遊水地の中に降った雨を最初に貯めるところです。



3 水門 【水門幅12m】
 洪水時には水門を閉めて、牛津川の水が遊水地内に逆流するのを防ぎます。



4 越流堤 【延長70m】
 牛津川の水位が高くなったら、ここから遊水地内に水が入ります。



5 遊水地 【面積52.4ヘクタール・遊水量約90万m³】
 大洪水のときには、この区域に一時的に水を貯め、下流の被害を減らします。



6 網場
 水位が上がるとボールに沿って網が上昇し、洪水によって流れてくる木やゴミが遊水地内に入ってくるのを防ぎます。



7 空間監視カメラ・警報装置
 大雨の時や通常時において河川や施設の状況を遠くから監視しています。また、大雨の防災情報も提供しています。



8 情報標示板
 大雨の時、川の状況や牟田辺遊水地内の道路の浸水情報等をお知らせします。

遊水地は、川沿いの一部を堤防で囲い、洪水の水を貯めて、下流に流れる水量を減らします。そのあと洪水が治まってから溜めておいた水を、川に戻します。

■ 通常時

ふだんは、田畑として利用されています。



■ 中小洪水の時

中小洪水のときには、遊水地内に貯まった水をポンプで川に汲み出し、水田などが浸水しないようにします。



■ 大きな洪水時

牛津川の水位が高くなったら、牛津川の水を越流堤から遊水地に導き、下流へ流れる水の量を減らします。



※出典：武雄河川事務所 牛津川遊水地資料



小倉遊水地
 （熊本県阿蘇市）
 初期湛水池（掘り込み方式）と二次湛水池（地役権方式）を併用した例

※出典：阿蘇市広報誌